

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.130

< 目 次 >

【ご案内】

- ★ 創立30周年記念事業 1
- ★ 平成30年度発表会 2

【報告】

- ★ NPO法人いわき環境研究室 3
- ★ いわき自然エネルギー研究会 5

【連載】

- ★ 昔日の下川海岸—その1 6
- ★ 新川のはじまり 水だより(8) 9

【事務局から】

- ★ 7月～8月事務局会議報告 11

【ご案内】 創立 30 周年記念事業のご案内

昨年度よりご案内のように、当会の設立 30 周年を迎え記念事業を下記のとおり開催いたします。
会員の皆様には、ぜひご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。

記

○記念講演会

1. 日時 平成 30 年 10 月 28 日 (日) 13 : 00 ~ 16 : 00 (受付開始 12 : 30)
2. 場所 福島工業高等専門学校 専攻科棟 1 階 多目的講義室・第 1 講義室
3. 内容 記念誌発刊報告、環境科学遺産発表、記念講演 (2 件)、懇親会

○記念植樹

1. 日時 平成 30 年 12 月 2 日 (日)
2. 場所 湯ノ岳山荘

※こちらについては「いわきの森に親しむ会」で実施する育樹祭に加わらせていただく形になりますので、人数とりまとめの都合上、参加ご希望の方は 10 月 15 日(月)までに事務局までお知

らせください。

問合せ先 いわき地域環境科学会事務局

担当：山田 (TEL：0246-46-0800, E-mail:yamada@fukushima-nct.ac.jp)

【ご案内】

第30回 発表会

当会では、いわきの環境に関する情報交換や意見発表の場として毎年発表会を開催しています。今年度は、設定テーマについては30周年記念事業の一環として募集しました「いわきの環境科学遺産」についてご発表いただく予定です。自由テーマにつきましては、従来通りいわき地域の環境に関する調査や研究についての内容をご発表いただきます。会員の皆様の日頃の活動からの思いなどをご披露いただきたいと考えていますので、ぜひご応募ください。

下記の内容で発表会を開催いたしますので、どうか奮って発表参加をお願いいたします。

記

(1) 日時 平成31年1月19日(土) 13:30~17:00(予定)

(2) 場所 パルシステム福島「みんなの交流館」

(3) 発表内容

自由テーマ

設定テーマ「いわき地域の環境科学遺産」

(4) 発表方法等

○発表の形式は、パワーポイント等を使用した口頭発表です。

○発表時間は1件につき標準20分間です。ただし、5分間程度のショートスピーチから発表時間30分程度のロングプレゼンも可能で、事務局が発表者と相談の上決定します。

○発表要旨集に掲載する原稿を、A4サイズで4ページ以内にまとめていただきます。

(5) 発表参加申し込み等

○発表申し込み〆切：平成30年12月7日(金)事務局発表会担当まで発表者名とタイトルをご連絡ください。

○要旨集原稿提出〆切：平成31年1月11日(金)原稿は電子ファイルでご提出ください。

(6) 問合せ・申込み先

いわき地域環境科学会事務局(発表会担当：山田)

〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30 福島工業高等専門学校 電気電子システム工学科

Tel.0246-46-0800, Fax.0246-46-0807, E-mail:yamada@fukushima-nct.ac.jp

◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

(平成30年7月1日～8月31日)

[1] 好間第4小学校支援(3回目)・源流から河口まで

7月6日、学校からバスで好間川上流の雨降山に到着、
天気が良くないためカッパを着用し、沢沿いに水源地向
目指しました。源流では流れに手を入れ、14℃の冷たさを
実感し、サワガニも採取しました。バスで移動し、好間川
と夏井川が合流する地点を直にみることができました。
いよいよ夏井川河口に到着、太平洋を眺め、波の音を聞き
ながら、お弁当を食べました。最後は、河口でカニを捕ま
えました。



[2] 小学生を対象とした夏休み自由研究学習支援講座を開催

7月22日、パルシステム福島との共催で「みんなの
交流館」を会場に実施しました

申し込みが多く、小学生34名(保護者含め61名)とな
り、対応には少し苦労しましたが、どのコーナーも歓声
が起き、活気溢れる講座となりました。

最後には、夏休み自由研究について、テーマの選定、実
験や観察の仕方、データのまとめ方など参考となる講義
を行いました。

1) サイフォンコーナー：水槽の水をホースだけで傾け
ずに空の水槽に効率よく移す実験、「コップの底に穴が
あるのに水が漏れない不思議なコップづくり」、「マリ
オットの瓶」や「ヘロンの噴水」を体験しました。

2) 表面張力コーナー：水滴が丸くなったり、1円玉が
水に浮かんだり、表面張力によって面白い現象が起
きることを実験・体験を通して学んでもらいました。



「勝手に登る楊枝」や「シャボン膜の不思議な造形」、「ひとりでスイスイ走る船」の他、「針金アメンボ」作りにも挑戦しました。

3) 最初に、浮沈子を製作、飾り付けを行いました。その後、なぜ浮沈子が、浮いたり沈んだりするかを、真空ポンプを使った実験や大きなペットボトルを使って解説しました。

〔3〕小川町関場地区農地水環境保全会「身近な水路の水環境を調べる」を開催

7月29日(日)午前に開催しました。参加児童は22名。当初、農業排水路及び小川斜め堰での水生生物調査等の屋外での調査を予定していましたが、生憎の雨天のため、屋内で予め採取していた水生生物を顕微鏡で観察しました。また、4箇所の河川及び水路(斜め堰、小玉川、農業排水路、新川)の水質分析(COD、におい、透視度、導電率)を行いました。その水質分析結果をレーダーチャートに表し、水質の違いの原因を考え、身近な水環境についてスライドで説明しました。なお、4箇所の水質には大きく差異があり、小玉川はきれいであったが、新川はかなり汚いことが分かりました。



川や水路で見られる水生生物や魚類等について説明後、「アメンボが何故浮くのか？」の実験に取り組み、理解を深めました。



〔4〕ふくしま環境教育フォーラム2018に参加 (コミュタン福島)

8月4日(土)三春にある「コミュタン福島」にて、「ふくしま環境教育フォーラム2018」が開催されました。昨年に続き2回目の参加です。

ワークショップを通して、高校生とふくしま環境活動支援ネットワーク団体等との交流を促進し、相互の活動を向上させるイベントです。

我々のコーナーには50名ほどが訪れ、メイン展示である「手作り水車からエネルギーを学ぶ」と「浮沈子から、アルキメデスの原理、パスカルの原理及びボイルの法則を学ぶ」に関し、種々の実験装置を使って、説明しました。多くの方から分かりやすい展示であるとの意見を頂きました。



高校生のパネル発表では、いわき市から参加した磐城農業高校が優秀賞に選ばれました。



[5] 赤沼環境保全会主催の農村水環境学習支援

8月5日(日)、福島県の「水との共生」出前講座として、赤沼環境保全会主催で赤沼構造改善支援センターを会場に開催されました。児童13名(他に保護者・役員各9名)が参加しました。今年度は少雨の影響か例年調査農の水路には、ほとんど魚影が見られなかったため、支援センター近くの水路で生き物調査に挑戦しました。魚はタモロコが多数、ヨシノボリとドジョウが1尾ずつ捕れました。昨年多かったボラは見られませんでした。その他ではアメリカザリガニ、タニシ、アマガエル、アメンボもたくさん捕れました。その後、4班に分かれて赤川上流、三夜川、農業用水、横川の4カ所の水を、COD、透視度、におい、導電率の4項目の水質分析をしました。

次いで、赤沼でこれまで採捕した魚類、水生生物、水生昆虫についてパワーポイントで説明しました。最後にアルミの針金を使ってアメンボを製作しました。子どもたちは自作したアメンボが水の上に浮かぶと大喜びでした。



【報告】 「いわき自然エネルギー研究会」の動き (第22報)

①自然エネルギー研究会を開催します。

研究会も今年度で解散の見込みです。これまでの活動を振り返り、今後の対応についても意見交換をしたいと思いますので、会員の方の積極的なご参加をお待ちしております。

日時：9月22日(土) 10時30分～、

会議後、湯の岳山荘内の自然エネルギー施設見学→簡単な昼食→解散

場所：湯ノ岳山荘

②平窪自然塾の動きから

平4小6年生対象に自然エネルギー活用などのアンケート調査を実施しました。

結果は、今後平窪地区でのエネルギー利用の在り方を考える上での参考にする予定です。

【連載】

昔日の下川海岸—その1

江尻陽三郎 (会員)



写真1. 下川海岸からの八崎の遠望



写真2. 下川海岸と防潮林



写真3. 下川海岸の岩山と大剣の海食崖

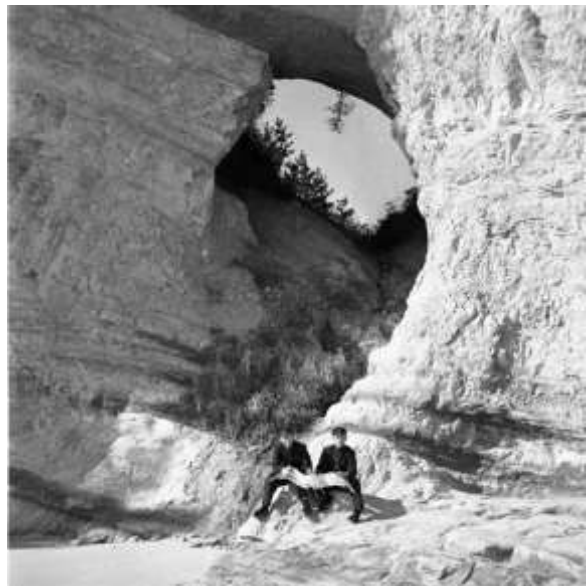


写真4. 大剣海食崖の天然穴

昔は米の積み出しに利用されたと言われ、地元では「俵転がし穴」と呼ばれていました。

これから3回に亘って、昭和20年代末～30年代末にかけての市内泉町の下川海岸の風景を撮影した写真を掲載させていただきます。被写体の場所は、現在の藤原川河口の港大橋付近から大剣ふ頭の西側の岬「八崎 (はっつあき)」にかけての海岸です。この辺りは、昭和47年頃に始

まった大剣工業団地の大規模造成に伴い、殆ど原型をとどめないほどに開発されてしまった場所で、持続可能な地域社会を考える上でも、我々に重い課題を提起している地域であると言えるでしょう。

写真1～10の写真は江尻慎一郎氏、写真11、12のそれは安島 勤氏（いずれも市内泉町に在住）の撮影によるものです。



写真5. 下川海岸



写真6. 下川海岸の岩山で遊ぶ子供達

写真5、写真6：前回掲げた写真3の岩山を反対側より望んだものです。この辺の河口では、ハゼやセイゴなどが良く釣れました。簡単な釣り道具で十分で、お金も殆どかからず、子供たちの格好の遊び場になっていました。



写真7. 下川海岸の岩山



写真8. 天狗岩（下川・大剣海岸）

写真8：左側に見える白色の岩は、天狗岩と呼ばれていました。同写真の右側に見える岩山を南側から撮ったのが写真7です。



写真9．下川海岸の日の出

写真10．藤原川の渡し舟

詳しい説明は紙幅の都合上、割愛させていただきます。いつか機会があれば、ミニ講演会のような形でご説明するのが適当かと思えます。

写真10：少なくとも昭和20年代末までは、下川地区と小名浜の間には橋はなく、両地区の間の往来はこのような渡し船に依っていました。



写真11．神笑地区南側の下川海岸（昭32.8.） 写真12．常磐炭鉱保養所「悠々荘」

写真11：左下の川の一帯が、現在の湾岸道路のあるところです。当時の光景をご存じの方には、殊更感慨深いものがあるのではないのでしょうか。写真12：神笑地区の岸边に建てられていた常磐炭鉱の保養所です。夏休みの間は、臨海学校なども賑わっていました。

【連載】 新川のはじまり 水だより (8)

いわき科学の里 主宰 諸橋健一 (会員)

むかし、新川は古川 (ふるかわ) と呼ばれていました。小島あたりの川幅は 3m ぐらい。小鮒やどじょうがとれる子ども達の自然とのふれあいの場でもありました。

内郷、平地区は、大雨が降るたびに氾濫を繰り返す古川の氾濫原でした。上流の高野から洪水によって運ばれた洪積層が堆積し、小さな平野がつくられました。はじめは、砂州が形成。それが、たび重なる洪水によって次第に埋められ、湿地になったのでしょうか。小島あたりは、地名のとおり、小洲 (おじま) のようになっていたと思われます。洲と島とは、植生があるかないかで区別しています。

昭和 9 年に古川は新川と改名。二級河川に指定されます。その後幾度か河川改修が行われ、川は掘り下げられ、川幅は広げられます。川が深く掘り下げられることによって、沿岸の地下水位は下がります。そして、湿地は農地や宅地に適した土地になっていきます。

しかし、それでも川はたびたび溢れました。昭和 40 年代後半のことです。市役所周辺が水没、市庁舎に入れなくなったという経験もしました。

昭和 52 年 9 月のいわき市を襲った大水害。これを契機に、河川激甚災害対策特別緊急事業が実施されます。新川は、幅 58m の都市河川に生まれ変わりました。

昔から、新川沿岸の人が新川をめぐって環境活動を行っています。昔は川をきれいにする運動や魚の放流事業。最近では「新川で石炭を探そう」とか「新川の地質を調べよう」など、新しい活動形態が目立ちます。

平成 3 年、小島ポンプ場が完成。これで、内郷綴町から夏井川までの雨水排水ポンプ場は 8 カ所になります。ほぼ、洪水対策は完了ということでしょうか。新川は、下流域の短い区間に 8 つのポンプ場を持つ珍しい川となります。これは、この地が水害常態地帯だった証拠でもあります。

平地区に、昭和 33 年から下水道が整備されることになります。下水道は汚水の処理だけではありません。雨水の排除も重要な役割の一つです。元の新川は北部処理区中部 1 号雨水幹線に生まれ変わります。径 2.9×2.6m の幹線は、今の新川公園の地下を流れ、北白土第一ポンプ場まで続いています。

確か、雨水排水ポンプ場の設計値は、時間当たり降水量 47.4 mm に耐えられるもの。50mm ぐらいの大雨までは大丈夫だと思います。言い換えれば、これを超えたら、氾濫のおそれがあるということ。新川流域の水循環のバランスがどこかで崩れると災害が発生するということです。

いわき科学の里は 10 年前に設立されました。今年、10 周年を迎えます。降水量の観測をはじめてほぼ 2 年。いわき地域環境科学会会員の中でも、新川流域の降水や流域の水循環について関心を持っている方は少ないと思います。でも、「観測して記録すること」これは、環境科学の基本だと思うのです。今、役に立たなくても観測を続け、データを公表していくつもりでいます。地球温暖化時代の今、100 年前に観測したデータが、過去との比較データとして役立っているのですから。

平成 30 年 7 月までの月別降水量観測値を次ページに示します。

月別降水量観測値 (単位 mm)

年 月	新川上流域	新川下流域	対照地域	
	高野	平	小名浜	川前
平成28年9月	326.5	216.0	257.0	244.5
10月	60.5	47.0	51.5	61.5
11月	98.5	72.5	73.5	68.0
12月	82.0	59.0	64.5	74.0
平成29年1月	50.0	30.0	55.5	28.0
2月	21.5	11.5	15.0	15.5
3月	99.5	78.5	98.5	47.0
4月	154.5	114.5	125.5	96.5
5月	172.5	84.0	76.0	103.5
6月	162.0	156.0	149.5	87.5
7月	155.0	123.0	100.0	248.5
8月	198.5	126.0	120.0	189.5
9月	265.5	159.5	179.5	158.5
10月	424.5	285.5	284.0	287.0
11月	49.5	30.5	39.5	23.0
12月	30.0	27.0	22.5	32.0
平成30年1月	38.0	25.5	34.0	31.5
2月	9.0	4.0	9.5	2.0
3月	344.0	222.5	239.0	191.5
4月	146.0	120.5	140.0	99.0
5月	200.5	150.5	202.0	144.5
6月	156.5	72.5	112.0	44.5
7月	107.5	74.0	76.5	139.0

※平、小名浜、川前は福島地方気象台発表値



ある日の新川風情



河川改修工事中の新川

【事務局から】 平成 30 年度 7月～8月 事務局連絡会議報告 & 事務局連絡会議への参加のお誘い

会の活動の活性化に向けて、事務局連絡会議の内容のダイジェスト版を会員の皆様にお伝えしています。今回は、7月と8月の事務局会議の内容です。

○7月事務局連絡会議

日時：平成30年7月2日（月）18：30～19：55

会場：福島高専専攻科棟1階 多目的講義室

出席者：11名

議事内容：

・報告事項

- (1) 事務局関係（会員の動向，ホームページの更新状況・アクセス状況）
- (2) 事業・プロジェクト関係（総会資料・会費請求書および振込用紙の発送）
- (3) 編集委員会関係（「EQUAL」31号，「ふいーど」129号の発送）
- (4) 会員個人の活動状況（各種会議への参加報告）
- (5) 関連団体の活動状況（いわき環境研究室，いわき自然エネルギー研究会から）

・協議事項

- (1) 30周年記念事業について
 - ① 環境遺産の選定スケジュール
 - ② 記念講演会の実施方式
 - ③ 記念誌発行のスケジュール
 - ④ 記念植樹のアナウンス
- (2) その他

○8月事務局連絡会議

日時：平成30年8月7日（月）18：30～20：20

会場：福島高専専攻科棟2階 第2講義室

出席者：8名

議事内容：

・報告事項

- (1) 事務局関係（会員の動向，ホームページの更新状況・アクセス状況）
- (2) 事業・プロジェクト関係（7月の会の活動）
- (3) 編集委員会関係
- (4) 会員個人の活動状況（各種会議への参加報告）
- (5) 関連団体の活動状況（いわき環境研究室，いわき鳴き砂を守る会から）

・協議事項

- (1) 30周年記念事業について
 - ① 事業全体のスケジュール
 - ② 環境遺産の選定スケジュール
 - ③ 記念講演会の実施方式
 - ④ 記念誌発行のスケジュール
 - ⑤ 記念植樹のスケジュール
- (2) 第22回子供環境研究発表会の計画について
- (3) 会報「ふいーど」130号の編集
- (4) 会報「ふいーど」の県立図書館への寄贈について
- (5) 寄付金について
- (6) 講座開催の提案
- (7) その他

* いわき地域環境科学会事務局では、原則毎月第1月曜日の18時30分から20時50分（それよりも早く終わることもあります）に福島高専にて事務局連絡会議を開催しています。会の活動の状況を詳しく知ることもできますし、各自が考えていることを会の活動に反映させることも可能です。事務局連絡会議に関心のある方・一度出席してみようという方は、事務局担当の山田までご一報ください。皆様のご参加をお待ちしております。

次回の事務局連絡会議は、都合により9月5日（水）18時30分からとなっております。

〈事務局担当〉福島高専電気電子システム工学科 山田 貴浩

電話：0246-46-0800 FAX：0246-46-0807(学科共用)

電子メール：yamada@fukushima-nct.ac.jp



2018.9.1 No.130

発行：いわき地域環境科学会
福島工業高等専門学校
地域環境テクノセンター内
〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org